

～ 遠野ボランティアセンターを通しての活動報告 ～

2011年10月6日

福岡地方バプテスト連合 災害対策窓口

「サマリタンケース」

これは、サマリタンパースという団体が、被災者のために、生活するのに必要な品をケースにセットして、配布しているものです。

さっそく取り寄せて、仮設住宅の入居者たちに配布をしています。



「サマリタンケースの中身」

こちらがその中身になります。フライパン、フライパン返し、包丁、まな板、砂糖、塩、物干しハンガー、シーツ、布バック、バスタオル、その他



「なごみカフェ」

キッチンカーが、遠野ボランティアセンターの10月5日に全国壮年会連合の方々によって届けられました(大城戸兄、石井兄、伊藤兄)。

今後、準備が整い次第、被災地に向けて出発される予定です。





日本バプテスト宣教団のメンバーによって作成されたベンチが、仮設住宅に配達するために、荷造りが行われていました。

私たちは、3台の車に分乗して、サマリタンケースや、衣類などの支援物資を車に積んで、大槻町の吉里吉里と小鎗にある仮設住宅に向かいました。



吉里吉里にある仮設住宅に設けられたグループホームに、物資を届けました。



グループホームにおられる高齢者と一緒に、秋の唱歌や、懐かしの歌（ナツメロ）などを30分ほど歌いました。

みなさん、大きな声で歌われて楽しいひとときを過ごすことができました。



大槻町の小鎗にある仮設住宅に行ったら、日本バプテスト連盟の宣教団のメンバーが作成したベンチが届けてありました。

ジョージア州やテネシー州から来た大工さんたちの作品です。

こちらの仮設住宅の前で、あいにくの雨模様の天候でしたが、青空市を開きました。毛布、ジャンパー、フリースの毛布、洗剤類、野菜ほか。また、予約をされていた方々にサマリタンケースをお渡ししました。



大槌町の小槌にある仮設住宅においても、歌声広場を行いました。秋の唱歌や、懐かしの歌（ナツメロ）などを一緒に歌いました。ボランティアのメンバーの一人である川崎教会の松岡兄が、今度の大地震を覚えて作詞作曲した歌を、皆さんの前で歌ったら、多くの方がそれを聞いて涙を流されました。その歌詞のコピーを求められる方が数名ありました。様々な困難を抱えておられる被災者の方々ですが、楽しんで歌っておられるその姿を見て、私たちの方が勇気づけられました。

この仮設住宅に入居されている方にお話を伺いましたが、少し山手に建てられたこの仮設住宅では、冬場に雪が積もったりして心配しているとのことでした。

また、毛布や衣類を届けたのですが、十分には行き渡らず、後から遅れて来られた方も残念がっておられました。次回、ボランティアのお手伝いを頂いて届けることができると願っております。

歌声広場の後は、金子千嘉世副理事長が、マッサージを希望者にしておられました。指のマッサージをしながら、色々とお話を聞いておられました。

ボランティアのメンバーも、それぞれに仮設住宅の方々にお話を伺っておられました。

現地に行って、つくづく現地の現実を知らないことを感じました。

大地震の発生から7カ月になりますが、釜石市の市街地は、地震の時のままのような感じです。鉄筋コンクリート造りのビルが何棟も並んでいるのですが、1階と2階は、津波によって内部が破壊され、3階、4階は火災が発生したために、中が焼け落ちている、そのままの状態が残っていました。生活感があつたそのビルに、カメラを向けることができませんでした。

その北部に位置する大槌町にも行きましたが、漁村として栄えたであろう市街地は、津波によって押し流されて、瓦礫を撤去された今は、更地が広がっていました。そのために、大槌町の仮設住宅の被災者たちは、買い物をするためにわざわざ釜石市まで車で買い出しに行かなくてはいけない状況です。そして、車を持たない高齢者たちは買い出しに行くこともできず、困っておられました。今回、仮設住宅にボランティア団体によって設けられたカフェでボランティアとして1日働いたのですが、集まってきた高齢者からは、買い物ができない不自由さを何人からも聞きました。

大槌町は、町役場が流され、町長以下主だった職員が津波に飲み込まれて死亡したために、他の市町村に比べて復興が遅れているそうです。

また、東北の冬の寒さは厳しいのですが、仮設住宅には、エアコンしかありません。津波の被害に再度合わないために、仮設住宅は山手に作られています。そのために、雪が積雪することを心配されていますし、コタツや、ストーブが欲しいと言われていました。

そして、毛布や冬物衣料なども不足しているようで、大槌町の仮設住宅に私たちの団体が支援物資を届けたのですが、たくさんの方が集まられて熱心に選ばれていました。(釜石線で遠野に向かっている列車で乗り合わせた年配のご婦人から聞いた「冬物がない、暖房器具がない」という現実を目の当たりにしました)